



研究データ管理事始め： Love Data Week 2023 さいごに

国立大学図書館協会資料委員会オープンサイエンス小委員会
神戸大学附属図書館 鈴木雅子

「RDMMのための標準技術の普及」チーム その他の活動

国立大学図書館のRDM支援力強化に向けて

国立大学図書館が各大学の研究データ管理・公開に実質的に貢献

(活動中間報告会) 月刊JPCOAR 令和5年2月15日(水) 14-16時

大学のポリシー策定を支援

策定段階等に応じた課題解決を促進

①研究データポリシー策定のためのワークショップ

令和4年11月28日(月)
所属機関のポリシー策定状況や課題を共有し、少人数で意見交換・課題解決

②RDM事例共有・意見交換会

令和5年1月30日(月)
AXIES・JPCOARの「研究データ管理事例集」から具体的な実践を紹介

RDM支援業務の設計と図書館職員による実践

図書館職員のスキル向上

RDM支援活動の事例分析と共有

海外先進大学にインタビューし国内に共有
 ・支援チームメンバーの専門分野や経歴は？
 ・支援チームに参加する図書館職員の役割は？
 ・支援業務に必要な知識やスキルは？
 どうやって身に着けた？
 ・研究者から求められているもの・ことは？

インタビュー先(一部調整中)：ライデン大学、ノルウェー北極大学、ケンブリッジ大学、ワグニングン大学
 (京大・阪大・神大・奈女・奈教の各図書館による共同翻訳「データ管理で研究者と協力するために：クックブック」掲載事例から選定)

RDMのための標準技術の普及 RDA編「メタデータ標準カタログ」

日本語訳12月15日(木)公開
各学術分野ごとの、研究データ記述用標準メタデータの解説集。理系出身図書館員等が各分野ごとに日本語化を監修

研究データに適切なメタデータを付して国際流通性を高められるよう、研究者への助言・補助



NII RDC/
GakuNin RDMについて知識がなく、画面を見たこともない職員向け

GakuNin RDMに触れてみる会

RDM支援業務の設計の参考のため、機能概要を把握
 第1回 令和4年12月23日(金)
 第2回 令和5年1月11日(水)

データジャーナルとはどんなものが南山さんに教えてもらう会

令和5年2月1日(水)

国立大学図書館協会 資料委員会 オープンサイエンス小委員会

(小委員会)

委員長：永盛克也(京都大学)

京都大学
 大阪大学
 神戸大学
 2023/2
 富山大学
 奈良女子大学
 大阪教育大学

若手職員によるタスクフォース

東京大学
 名古屋大学
 京都大学
 神戸大学
 広島大学
 国立民族学博物館

第17回月刊JPCOAR

現役の理系出身図書館職員等による専門サポートグループ

北海道大学
 東北大学
 東京大学
 東京工業大学
 富山大学
 名古屋大学
 奈良先端科学技術大学院大学
 神戸大学
 広島大学
 愛媛大学
 国立情報学研究所

「根っから文系のSさんに理系の研究生生活はどんなものか教えてあげる会」

(小委員会内メンバー間の「データ」に関する情報共有・意見交換会)

第1回：令和4年10月26日水
第2回：令和4年11月21日月
第3回：令和5年1月6日金

- 理系出身メンバーが学生時代について詳しい自己紹介
 - 例えば、観測と言っても
 - フィールドでネズミを捕まえて大きさを計測
 - 河川・海水のサンプルから濃度を計測
 - 実験のための観測装置の性能評価（電圧や光の強度を測定）
 - 細胞を育てて顕微鏡で運動性を観測 → 写真撮影
 - 「ダウンロードサイエンティスト」（公開・販売データを利用）
 - 分野特化型DB（タンパク質、強震観測、データ目録 etc）
- 文系にも、撮影映像・音声（文化人類学）、古文書、社会調査

「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について（審議のまとめ）【概要】（案）」

- 最近では、図書館のデジタル転換や、それを通じた支援機能の強化等の取組についての方向性を定めることが求められていることから、大学図書館職員も分野ごとのデータの取扱いや特性の違いを理解する知識までも求められるようになってきている。
- 研究データのオープン化への対応に関しては、各大学図書館は公開されている研究データの発見可能性を高める方策を検討・実行するとともに、研究の開始から成果公表に至るまでのプロセス全体（研究のライフサイクル）を視野に入れた大学全体の研究推進体制の構築や教育のデジタル化の動向とも連動し、この新しい体制における大学図書館の役割を明確にする。
- 大学図書館は、これまでの業務に加え、研究データの管理にも携わることになるため、大学における学問の在り方や研究のライフサイクルを理解することが不可欠であり、その中で何が必要かを同定し、適切な支援を行っていく必要がある。

https://www.mext.go.jp/content/20230130-mxt_jyohoka01-000027266_2.pdf

理系図書館員の出番！！

Disciplinary Metadata

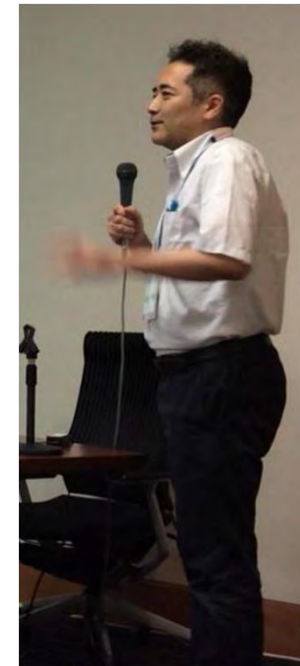
While data curators, and increasingly researchers, know that good metadata is key for research data access and re-use, figuring out precisely what metadata to capture and how to capture it is a complex task. Fortunately, many academic disciplines have supported initiatives to formalise the metadata specifications the community deems to be required for data re-use. This page provides links to information about these disciplinary metadata standards, including profiles, tools to implement the standards, and use cases of data repositories currently implementing them.

For those disciplines that have not yet settled on a metadata standard, and for those repositories that work with data across disciplines, the General Research Collection link provides information about broader metadata standards that have been designed to suit a wide range of research data.

Search by Discipline



出合せ、 理系図書館員！



杉田茂樹, “図書館にとってのCSTI報告書レビュー”, NII学術情報基盤オープンフォーラム, 2015.6.11

(再掲)

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

NII 国立情報学研究所 学術情報基盤 オープンフォーラム 6月11日(木) & 12日(金)

2015

学術総合センター

一橋講堂・特別会議室ほか
東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

オープンサイエンスに向けた 学術情報基盤 SINET5

大学などの学術界では、研究成果や研究データを広く公開し、社会一般からアクセス可能にすることで、より幅広いアプローチを生み、新たな研究やイノベーションの創出につなげようという「オープンサイエンス」への期待が高まっています。NIIは、大学・研究機関等の学術コミュニティの研究・教育活動に不可欠な学術情報基盤（学術情報ネットワーク、認証基盤、学術コンテンツサービス、クラウド活用支援サービス）の整備・拡充を推進しています。学術情報基盤をより便利で使い易く、さらに安心して安全なものへと発展させていく中でオープンサイエンスにも着目し、本年のフォーラムではオープンサイエンスを支援する上で学術情報基盤に求められているものは何か、何を充実すべきかを全国の大学・研究機関の皆様と共に議論していきます。

14:10-16:00 | 特別会議室 (1F)

オープンサイエンスに向けた図書館の取り組み

図書館にとってのCSTI報告書レビュー

杉田 茂樹 (千葉大学附属図書館)

[講演資料(PDF0.9MB)] [講演映像(NII Youtube)]



データライブラリアンに求められる能力と人材育成

池内 有為 (筑波大学大学院)

[講演資料(PDF3.1MB)] [講演映像(NII Youtube)]



海外事例に見る

オープンサイエンス推進における図書館の役割

西園 由依 (鹿児島大学附属図書館)

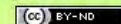
[講演資料(PDF1.4MB)] [講演映像(NII Youtube)]



研究データにDOIを - JaLC実験プロジェクト

中島 律子 (科学技術振興機構 知識基盤情報部)

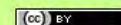
[講演資料(PDF1.3MB)] [講演映像(NII Youtube)]



研究データ管理：図書館に期待される機能、役割

大園 隼彦 (岡山大学附属図書館)

[講演資料(PDF2.5MB)] [講演映像(NII Youtube)]



ラップアップ

武田 英明 (NII教授)

<https://www.nii.ac.jp/csi/openforum2015/>

7年も経ってる…

オープンサイエンス小委員会 その他の活動

国立大学図書館のRDM支援力強化に向けて

国立大学図書館が各大学の研究データ管理・公開に実質的に貢献

(活動中間報告会) 月刊JPCOAR 令和5年2月15日(水) 14-16時

大学のポリシー策定を支援

策定段階等に応じた課題解決を促進

①研究データポリシー策定のためのワークショップ

令和4年11月28日(月)
所属機関のポリシー策定状況や課題を共有し、少人数で意見交換・課題解決

②RDM事例共有・意見交換会

令和5年1月30日(月)
AXIES・JPCOARの「研究データ管理事例集」から具体的な実践を紹介

RDM支援業務の設計と図書館職員による実践

図書館職員のスキル向上

RDM支援活動の事例分析と共有

海外先進大学にインタビューし国内に共有
 ・支援チームメンバーの専門分野や経歴は？
 ・支援チームに参加する図書館職員の役割は？
 ・支援業務に必要な知識やスキルは？
 どうやって身に着けた？
 ・研究者から求められているもの・ことは？

インタビュー先(一部調整中)：ライデン大学、ノルウェー北極大学、ケンブリッジ大学、ワグニングン大学
 (京大・阪大・神大・奈女・奈教の各図書館による共同翻訳「データ管理で研究者と協力するために：クックブック」掲載事例から選定)

RDMのための標準技術の普及 RDA編「メタデータ標準カタログ」

日本語訳12月15日(木)公開
各学術分野ごとの、研究データ記述用標準メタデータの解説集。理系出身図書館員等が各分野ごとに日本語化を監修

研究データに適切なメタデータを付して国際流通性を高められるよう、研究者への助言・補助



NII RDC/
GakuNin RDMについて知識がなく、画面を見たこともない職員向け

GakuNin RDMに触れてみる会

RDM支援業務の設計の参考のため、機能概要を把握
 第1回 令和4年12月23日(金)
 第2回 令和5年1月11日(水)

データジャーナルとはどんなものが南山さんに教えてもらう会

令和5年2月1日(水)

国立大学図書館協会 資料委員会 オープンサイエンス小委員会

(小委員会)

委員長：永盛克也(京都大学)

京都大学
 大阪大学
 神戸大学
 富山大学
 奈良女子大学
 大阪教育大学

若手職員によるタスクフォース

東京大学
 名古屋大学
 京都大学
 神戸大学

広島大学
 国立民族学博物館

第17回月刊JPCOAR

現役の理系出身図書館職員等による専門サポートグループ

北海道大学
 東北大学
 東京大学
 東京工業大学

富山大学
 名古屋大学
 奈良先端科学技術大学院大学
 神戸大学

広島大学
 愛媛大学
 国立情報学研究所

**アンケート、イベント、海外調査、翻訳、
成果物公開して終わり**

じゃなくて、その先

図書館職員による実践のフェーズへ！